

2019年12月19日

変化する海外福岡県人会の活動とその活用について

サンフランシスコ事務所長 徳永 博昭

1. はじめに

本年11月6日～9日にかけて、第10回海外福岡県人会世界大会が福岡で開催された。2019年12月現在、北米（ハワイを含む）および中南米には20の移住者による県人会が存在するが、近年は、企業駐在員等も加入するなど、その体制が変わりつつある。今回は、そうした移住者による県人会の最近の変化や本県との連携策について述べる。

2. 海外福岡県人会の現状

(1) サンフランシスコ福岡県人会

本県人会は、会員の高齢化が進む中で、一昨年に会長や理事の若返りを図り、企業駐在員などの新規入会を進めた結果、会員が増加している。これに伴い、若い世代でも参加しやすいピクニックなどのイベントも活発に行われるようになった（写真1）。また、渡米したばかりでアメリカの事情が分からない日系企業駐在員やその家族を対象とした「医療に関するお話し会」など、新規会員向けのセミナーなども積極的に企画するようになり、活性化が図られている。



（写真1：ピクニックの様子）

(2) シアトル・タコマ福岡県人会

本県人会では、福岡に縁がなくても加入できる「福岡ファン」枠を設け、会員増強に力を入れている。また、会長は選挙で選ばれることもあり、現会長は福岡ファン枠で加入した台湾出身者という、オープンな組織である。県人会メンバーで福岡県の魅力について話し合った時の会議参加者は、半数以上が日系人または日本人以外の「福岡ファン」資格の会員であった。福岡を訪れたことがない人も会議に参加しており、「どうすれば福岡の魅力を伝えられるか」など、外部の人の視点で福岡の食や文化、観光地について活発に議論が行われている光景を見ながら、「非常に心強い仲間が加わった」と感じた。また、福岡の情報発信にも積極的で、シアトル近郊で行われる日本紹介イベント「Japan Fair」にブース出展し、来場者に福岡の魅力を伝えている（写真2）。



（写真2：Japan Fairの様子）

(3) コロンビア福岡県人会

本年10月、同国で日本人移住90周年記念式典が開催された(写真3)。コロンビア移住者と本県は非常に関わりが深く、1929年の第一次移住者の5家族25名のうち、3家族14名は本県出身者であり、その後の第二次、第三次の計134名は、全員が本県出身者である。このため、現地の日系人協会の大半は福岡県人会の会員で、現在では世代交代した2世や3世を中心に活動している。

県人会の将来の担い手として期待される移住者の子弟等に福岡県の理解を深めてもらう機会を提供するため、県では海外福岡県人会会員の子弟や青年リーダーを招へいする「県人会担い手育成招へい事業」や、子弟を県内の大学等に留学生として1年間受け入れ、奨学金を給付する「福岡県移住者子弟留学生制度」を実施している。本県人会からも多くの子弟等が毎年参加し、本県との絆を繋いでおり、現地では「恩返しも含めて福岡のために何か手伝いたい」と熱望する声も聞かれた。



(写真3：記念式典の様子)

3. 海外福岡県人会の活用策

海外福岡県人会は、会員の高齢化や世代交代、企業駐在員の参加など、構成が変化してきているが、本県にとってかけがえのない人的ネットワークである。シアトル・タコマ県人会元会長の玉井氏は、県人会の活性化のため「ビジネス交流の場の創出」を提案されているが¹、筆者自身も同感である。

今回の世界大会では、県人会のネットワークを県内企業につなげるため、ビジネス交流会を行った。普段交流のない国・地域の企業や、そこで働く県人会の皆様との交流は、「具体的で詳細な現地情報を聞くことができ大変参考になった」「新たな気付きや人脈形成に非常に有意義であった」など、大変好評であった。

海外で働く多くの駐在員は、短期間で成果を求められるが、ネットワークを築く前に任期満了で交代するケースが多いため、簡単に成果を出すのは難しい。しかし県人会で知り合う人とは、同郷というだけで距離が縮まり、ビジネス上の人脈につながることも多い。実際、県人会で知り合った相手から会社のウェブ制作を受注するなど、県人会の場を通じてビジネスに結びついた事例も珍しくない。今後、海外でビジネスを考える際には、ぜひ海外福岡県人会の活用も念頭に置いていただきたい。現地のビジネス情報だけでなく、生活者の視点で生の声を聞く機会を得られる上、県人会員が持つ現地ネットワークも活用できるだろう。当事務所は、北米・中南米の海外福岡県人会とのネットワークを持つため、ビジネスのみならず現地の情報収集が必要な場合は、遠慮なくお問い合わせいただきたい。

¹ 10月29日西日本新聞記事より